山村地域のスズメの生息分布
－美山町の事例－

二村一男・大畠誠一

はじめに

スズメは最も身近に生活している鳥で人家に営巣をし，人家付近，農耕地などに餌を求めて生活をしている。それだけに昔からおとぎ話や童謡などでも親しまれ，俳句，詩歌なども数多く詠まれ，さらに日本画にもよく画かれている。しかし，その生活についてはあまり関心をはらわれず，その生態はまだ十分わかっていない鳥である。

この鳥は北半球に広く分布する。著者らも，ヨーロッパのパリ，ロンドン，シベリアのハバロフスク，アメリカ北西部のシアトルなどで確認している。中国やカナダで棲息の情報もある。ただし，北アメリカ大陸のものは19世紀にヨーロッパから持ちこまれて分散した鳥として有名である。[1)]

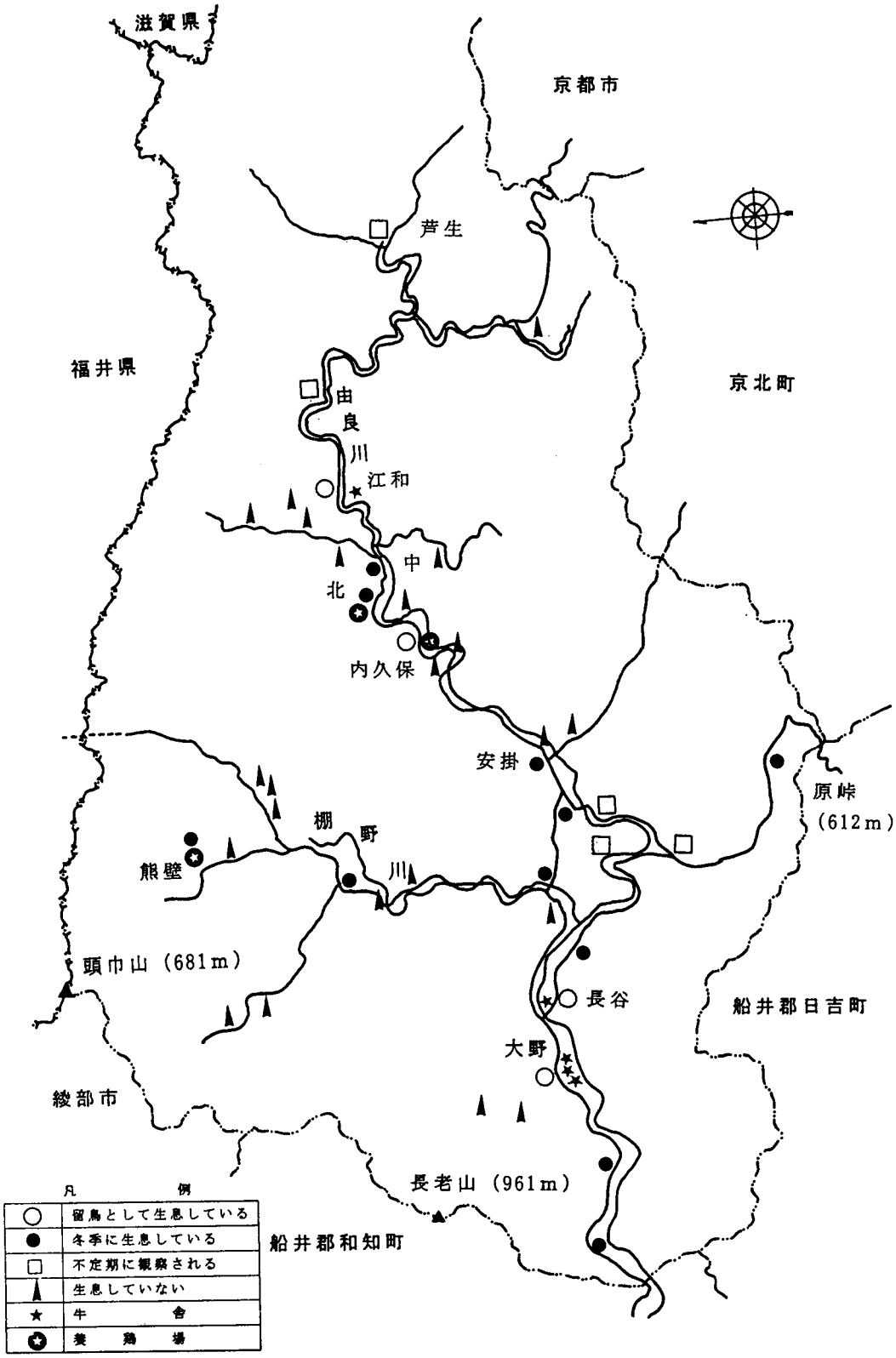
世界中にスズメと名のつく*Passer*属の鳥は15種いるといわれている。そのうち10種が人家種として人の住む環境に生息している。日本にはこの*Paser*属に含まれるスズメの仲間が2種類生息している。スズメ*Passer montanus saturatus* Stejnegerとニュウナイスズメ*Passer rutilansrutilans* (Temminck)である。ニュウナイスズメは本州中部以北の積雪の多い地方に分布するが局地的である。主として落葉広葉樹の樹洞に営巣するが人家に営巣した例もある。これに対し，やや大きいスズメは，より完全に人の住む環境に結びついていて，全国的に留鳥として生息している。しかし，これまで留鳥とされていたスズメが最近の標識調査によって日本列島を移動する鳥であることが明らかになってきた。

著者らは1967年から京都大学芦生演習林で鳥類の調査を始め，これまで鳥類相と鳥類の季節変化を報告してきた。[2)3)]その当時から芦生の集落付近（戸数7戸，演習林の宿舎10戸）のスズメは，12月～3月頃の積雪期から早春にかけて数個体が不定期に観察できたが定着はしなかった。ところが，芦生地区に在住の今井重一氏の話によると50～60年前の芦生地区は30戸余りであり，当時，スズメはわずかであるが確かに生息していたという。ただし，同地区内でも雪の多い年には見られなくなったようである。当時，稲作をしていた家では農耕用に牛を飼っていた。スズメにとって牛小屋の存在と人家の多い環境が生息には好条件であり，冬季は雪の少ない由良川下流域の集落に漂行する漂鳥の形態をとっていたのではないかと思われる。芦生地区にスズメが生息

Kazuo NIMURA and Sei-ichi OOHATA

An investigation of the habitat of *Japanese Tree-Sparrow passer montanus saturatus* Stejneger at hamlets surrunded mountains

－A case at Miyama-cho,Kyoto－



図－1　美山町のスズメの生息分布

していない現象が出発点になり，近年，過疎化の進む芦生地区と周辺の美山町内の他の山村地域でのスズメの生息分布に興味をもった。現時点での生息実態を調べておくことが必要と思い，11回の調査を終えたので，その結果を報告する。

調査地および調査方法

美山町は，京都府のほぼ中央にあり，京都市の北北東に位置し，福井県名田庄村，滋賀県朽木村，京都府の綾部市，京都市，和知町，日吉町，京北町に隣接する。面積340.47㎢で京都府全体の面積の7.4%にあたる。地勢は，東西31km，南北18kmで，東部の三国岳（959m），北部の頭巾山（871m），西部の長老山（961m），南部の原峠(612m)に囲まれ，京都大学芦生演習林を源流とする由良川が東西に，さらに北から棚野川が合流して町の中央部を貫通して日本海にそそいでいる。

美山町の現在の人口は5,579人である。これまでの国勢調査によると昭和30年には10,182人であった人口が昭和55年には5,531人と約半数に減少した時代もあった典型的な過疎の山村である。農林業を主産業とし，美山茶，美山牛乳，しいたけ，鶏卵，山菜加工品などが町特産品として知られている。近年，美山町が地域振興・村おこしとして「美山町自然文化村」にキャンプ場，グラウンド，観光リンゴ園，レストラン，宿泊施設などをつくった。また，数年前には日本では有数のかやぶき民家の残る北地区が国の重要伝統建造物群保存地区になり，昔ながらの原風景を求めてここを訪れる観光客も多くなってきた。

調査は，1991年7月10日から1995年10月7日までに11回行った。美山町内の安掛他42字の集落を回り，9倍の双眼鏡を使用して生態観察と鳴き声で確認調査をした。同時に現在は生息を確認できなかった集落でも住民に以前の生息状況について聞き取り調査を行った。

調　査　結　果

中村[4]によれば，スズメはアフリカなどの熱帯サバンナに住むハタオリドリ類の祖先型から分かれで，大陸から海を渡ってきた鳥であるという。その時期は日本の自然環境が農耕地というサバンナ的景観が生まれてからの渡来であろうと述べている。生態的に人家種の要素をもつツバメも営巣期にヘビやカラスなどの天敵から身を守る知恵として，人の出入りの多い人家に営巣し，稲の害虫を食べてくれる益鳥として昔から大切に保護してきた。今回のスズメの調査中にツバメの生息分布も同時に行ったところ，スズメの生息分布と共通性があった。

スズメが安定して周年生息している地区は，江和，内久保，長谷，大野であり，繁殖期および冬季にのみ生息している地区は，中，北，安掛，下平屋，原，萱野，小渕，樫原，島，鶴ケ岡，熊壁であった。不定期に観察された地区は，芦生，田歌，又林，宮脇，吉田で，まったく生息していない地区は，佐々里他22集落であった。また，現在は生息していない知見地区で古老に聞いたところ，60〜70年前はごく普通にスズメがいて，わずかな水田は手刈りで，人家付近でモミを天然乾燥していたところにもよくスズメがやってきたという。

考　　察

(1)生息環境の特徴

周年生息している地区には表－1に示すように牛舎と養鶏場の存在が確認された。これらの地域はスズメにとって安定した採餌地，ねぐら，繁殖地になっているといえる。美山町は水田，畑などの耕地がきわめて少なく，地域によっては冬季，長期にわたって雪が地表を覆い採餌が困難になる。しかし，牛舎や鶏舎は比較的解放的な構造になっており，乳牛や鶏の餌のおこぼれを採餌することができ，通年にわたってねぐらにも利用できる。また，建物の隙間は営巣する場所として格好の条件が整っているといえる。これらの地区の周年の平均生息個体数は40～80羽程度で，秋季には当年繁殖した若鳥を含む最高羽数は三つの牛舎が集中する大野地区ではおよそ100羽前後であった。養鶏場についても内久保地区では20～50羽，北地区では養鶏場はあるが集落付近には10～20羽程度が繁殖期に観察された。やはり規模の大きい内久保地区に集中する傾向が見られた。さらに，ここでは冬季には越冬する個体が50～100羽に増加するようであった。養鶏場の規模が最も小さい熊壁地区では周年生息せず3月，5月に4～5羽，冬季の2月で15羽の観察が最高であった。江和地区は牛舎と人家付近には水田があり，生息数は，10～50羽程度で人家付近には少なく，主に牛舎と由良川河畔のわずかな竹林付近に集中して観察された。この江和地区が由良川最上流のスズメの周年生息地である。

このような美山町と似た事例として，佐野[5]は南大東島で島全体がサトウキビ畑だけの環境にもかかわらず島唯一の人口密集地に1平方キロメートル当たり10,862羽という高密度の生息数を観察し，これらのスズメは集落のはずれにある養鶏場に依存していたことを報告している。さらに，この調査結果から，スズメの安定したポピュレーションの維持には最低20つがいが必要であり，スズメの寿命は2～3年であるので，補充との関係で毎年⅓が消失し，その分だけ新しい個体の補充がなされていると述べている。このことから美山町で安定して生息している地区は牛舎や養鶏場がある地区とみなされる。ちなみに著者[6]が京都府舞鶴市の郊外の里山に開設された公園風のレクリエーション施設で鳥類の調査をしたところ，人家のないこの施設内のミニ動物園のロバの畜舎にスズメが5～6羽住み着いていた。

芦生演習林事務所構内で1991年から観察したスズメについては，1991年10月29日6羽，11月22日6羽，1992年2月24日2羽，3月12日2羽，1993年3月21～23日1羽であった。いずれも早朝

表－1　牧場と養鶏場の規模

牧場及び養鶏場名	地　区	乳牛頭数	鶏羽数
河野牧場	江和	25頭	
下野牧場	大野	60頭	
大久保牧場	大野	40頭	
徳田牧場	大野	15頭	
A牧場	長谷	20頭	
B養鶏場	北		約2,000羽
外田養鶏場	内久保		約5,000羽
C養鶏場	熊壁		約100羽

から午前10時ころまでの滞在で，その後は飛び去ってしまった。これらの個体は晩秋から早春にかけての観察例で，渡りの途中と思われる興味深い行動でもある。佐野[7]はスズメは定住性が強いが，若鳥はかなりの長距離移動をすることを確認し，新潟県飯山市の分道地区から放鳥した個体がおよそ220kmも離れた岐阜県で回収されたことを報告している。芦生区で観察された個体も，このような移動個体であろう。

（2）営巣場所

一般的にスズメは営巣場所として，人家の屋根瓦，戸袋，換気孔などの隙間をよく利用する。しかし，最近の住宅は耐火構造，気密性の構造で巣作りの場所が少なくなってきている。人家以外の営巣場所として，由良川筋の一部に渡来する夏鳥のコシアカツバメのコロニーの古巣（写真－1）がよく利用されている。古巣を利用して営巣した場所は中地区の知井小学校，知井会館，民家，内久保地区のコンクリート橋の裏側，荒倉地区の生コンクリート工場，安掛地区の農振センターなどで，いずれもコンクリート構造である。ちなみに佐野[7]によれば信州のスキー場ではホテルの軒下に営巣したイワツバメの巣のいくつかをスズメが奪って営巣したと報告している。美山町ではコシアカツバメの巣がスズメによって利用されている。その他，スズメが人工建造物に営巣した例として，安掛地区の平屋大橋（写真－2）に14カ所，長谷地区の萱野橋（写真－4）に5カ所確認した。いずれも鋼製の橋の隙間であった（写真－3）。また，以外に多いと思われたのは電柱の角パイプ状の鋼製腕木の穴の利用であった（写真－5）。

調査地の中で小渕地区（30戸）は牛舎や養鶏場はないが2～10羽程度が比較的よく観察された。この地区には町内に多い茅葺きの民家が少ないことに疑問を持ち，村の古老に尋ねたところ，大正3年2月に村の⅔が焼失するという大火が発生し，その後，家屋は瓦葺きが多くなったとのことであった。スズメにとって集落周辺の耕地と瓦の民家がねぐら・営巣に好都合の環境になり，スズメが居着くようになったとも考えられる。著者はこれまで人工建造物でのスズメの繁殖例として，徳山市で道路標識の鉄柱の上部の穴[8]，宇治市の巨椋干拓地の農道のコンクリートよう壁の排水孔に10数カ所，それに草津市琵琶湖畔の橋の欄干の隙間などに営巣しているのを観察している。

ちなみに，朝日新聞（夕刊）[9]による記事で「村にスズメがいなくなった」理由に，◎食糧難説，◎住宅難説，◎移動説とそれぞれ専門家のコメントを交えた話が載っていた。この中で，日本野鳥の会徳島県支部長の曽良氏は「田んぼの機械脱穀などで田に落ち穂が残らなくなった」，「減反による休耕田によって田が荒れ，ヤブになり，スズメがいなくなった」，鳥取県八頭郡船岡町の大谷氏は「わらぶきの家がなくなり，新建材ばかりでスズメが巣作りできる家が少なくなった」，高知県中村市の日本鳥類保護連盟専門委員の沢田氏は「コンクリート住宅などの増加で巣を作れず，繁殖場所が昔に比べて狭まっている」，さらに広島県・筒賀村産業課は過疎の進行と関係づけ「人がいなくなった中国山地の過疎の村の集落にはスズメの群れもいない」と述べている。これらの話と美山町の調査結果から，山村地域のスズメの生息にはきびしいものがあり，全国的な共通性がうかがえる。

ま　と　め

美山町内の安掛他42字のうちスズメが留鳥として生息地区は，江和，内久保，長谷，大野の4

地区であった。この生息地区の共通点は牛舎と養鶏場があることで，これらの建物はスズメが自由に出入りができ，乳牛や鶏の餌を容易に採餌できることである。また，ねぐら・営巣場所としても利用され，特に餌の不足する冬季でもスズメが生息できる好条件の環境である。牛乳や鶏卵は美山町の特産品として生産されているが，これらの地場産業が衰退すればスズメにも大きく影響するものと思われる。人家種のスズメは人口密集地の都市部では生息数の大きな変化は見られないというが，美山町のような多雪地帯の過疎地域は，スズメにとってきびしい生息環境であると思われる。留鳥の生息条件として安定した餌とねぐら及び営巣場所が必要である。

今後の課題として各生息地区での個体数季節変化の調査が必要であろう。

引 用 文 献

1）ワイリー，E.O.（1993）系統分類学．宮正樹，西田周平，沖山宗男　訳．528 pp，文一総合出版，東京．

2）渡辺弘之・二村一男（1971）芦生演習林の鳥類相．京大演報．42．1－12．

3）二村一男（1989）芦生演習林の鳥類相の季節変化．京大演集報．19．1－16．

4）中村一恵（1990）スズメもモンシロチョウも外国からやって来た［帰化動物と日本の自然］．241 pp，ＰＨＰ研究所，東京．

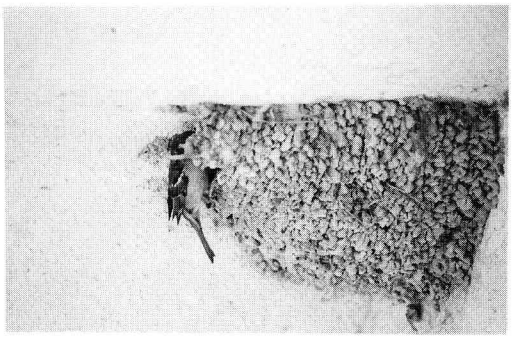
5）佐野昌男（1982）若者はどこえ行く［スズメは渡り鳥なのか］．アニマNo.115．28－34．

6）二村一男（1992）西武舞鶴農場および隣接地の鳥類相．西武舞鶴植物研究所報告．7．41－47．

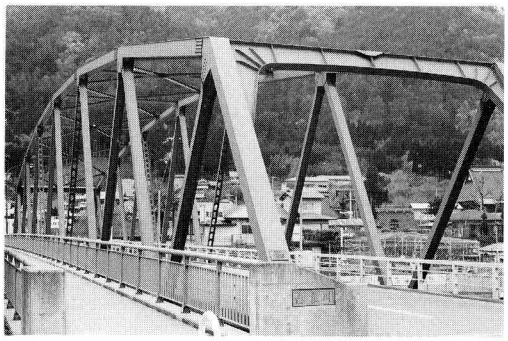
7）佐野昌男（1986）ほんとうにスズメを知っていますか（たくましいスズメたちの生活）．野鳥．（財）日本野鳥の会．No.481．14－17．

8）二村一男（1977）パイプの巣（スズメ）．私たちの自然．日本鳥類保護連盟．No.185．7．

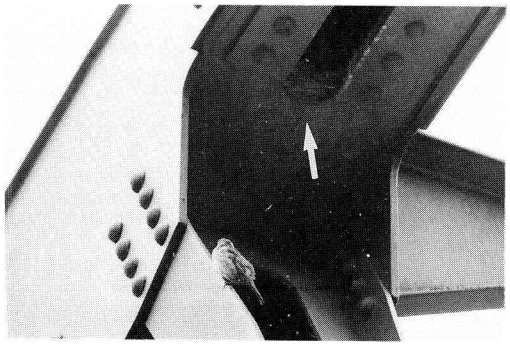
9）朝日新聞（夕刊2）．（1992年１月８日）．お宿はどこへ？　むらのすずめ



写真－1　コシアカツバメの古巣で育雛するスズメ

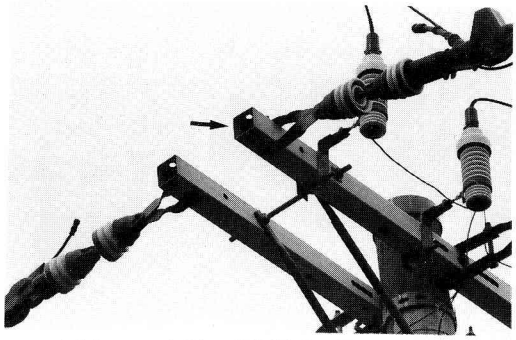


写真－2　平屋大橋（14ヵ所で営巣していた）



写真－3　平屋大橋のスズメの巣（矢印）

写真－4　萱野橋（5ヵ所で営巣していた）



写真－5　電柱の鋼製腕木の巣穴（矢印）